

2025年6月25日

第124回 静岡県内企業経営者の景気見通し調査(2025年7～12月期 B. S. I.)

景況感は2期連続で悪化 ～トランプ関税で製造業を中心に先行き不透明感が広がる～

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、5月中旬に実施した「静岡県内企業経営者の景気見通し調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

景気見通し

- 2025年下期（7～12月）のB. S. I.（業界景気見通し指数）は、「上昇」（17%）が「下降」（21%）を△4ポイント下回り、2期連続で景況感の悪化を示す結果となった。
- 原材料（仕入）価格や賃金の上昇などコスト高が続く中、米国のトランプ関税をめぐる先行き不透明感の高まりが重石になっているとみられる。
- 企業規模別にみると、大企業では「上昇」（21%）が「下降」（7%）を+14ポイント上回ったが、中小企業では「上昇」（17%）が「下降」（22%）を△5ポイント下回り、判断が大きく分かれた。
- 業種別にみると、製造業（△1→△7）は△6ポイント低下し、マイナス幅が拡大したが、非製造業（△3→±0）は+3ポイント上昇し、横ばいとなった。
- 2026年上期の見通しについては、「上昇」（17%）が「下降」（18%）を△1ポイント下回る見通し。

※本件のお問い合わせ先 担当（駒野 峻大）

〈7月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

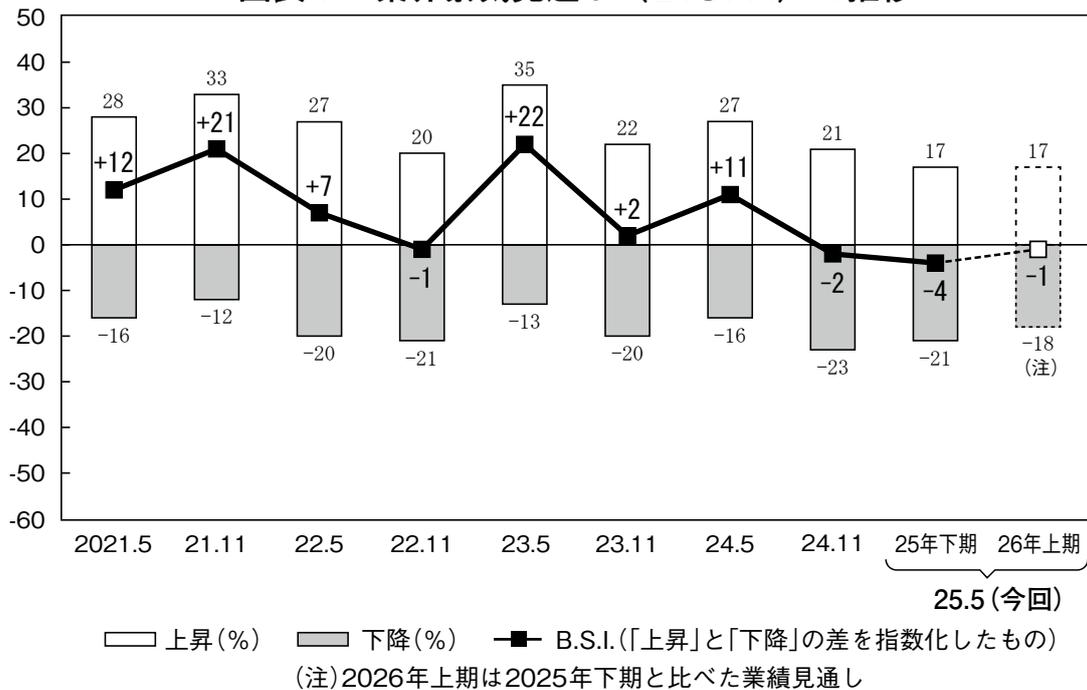
「2025年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査」

今月の定例調査

第124回 静岡県内企業経営者の景気見通し調査(2025年7～12月期B.S.I.)

景況感は2期連続で悪化 ～トランプ関税で製造業を中心に先行き不透明感が広がる～

図表1 業界景気見通し (B.S.I.) の推移



景気見通し (概況)

□ B.S.I. は2期連続で悪化、26年上期もマイナス続く

2025年下期 (7～12月) のB.S.I. (※) による業界景気見通しは、「上昇」(17%) が「下降」(21%) を△4ポイント下回り、2期連続でマイナスとなった(図表1)。原材料(仕入)価格や賃金の上昇などコスト高が続く中、米国のトランプ関税をめぐる先行き不透明感の高まりが重石になっているとみられる。

企業規模別にみると、大企業では「上昇」(21%) が「下降」(7%) を+14ポイント上回ったが、中小企業では「上昇」(17%) が「下降」(22%) を△5ポイント下回り、判断が大きく分かれた(次頁図表2)。

また、2026年上期(1～6月)は、「上昇」(17%) が「下降」(18%) を△1ポイント下回る結果となった。企業規模別にみると、大企業では±0と横ばいとなる一方で、中小企業は△2と、景況感の悪化が継続する見通し(次頁図表2)。国内外の経営環境に対する不確実性が高まる中、先行きは依然として見通しにくく、総じて慎重に捉える企業が多い。

(※) B.S.I. (Business Survey Index) とは、「上昇」と「下降」の差を指数化したもの。次頁の「調査の要領」を参照。

業種別見通し

□製造業はマイナス幅が拡大するも、非製造業は横ばい

2025年下期の業種ごとの業界景気見通しを前回調査と比べると、製造業（△1→△7）は△6ポイント低下し、マイナス幅が拡大したが、非製造業（△3→±0）は+3ポイント上昇し、横ばいとなった（図表3）。

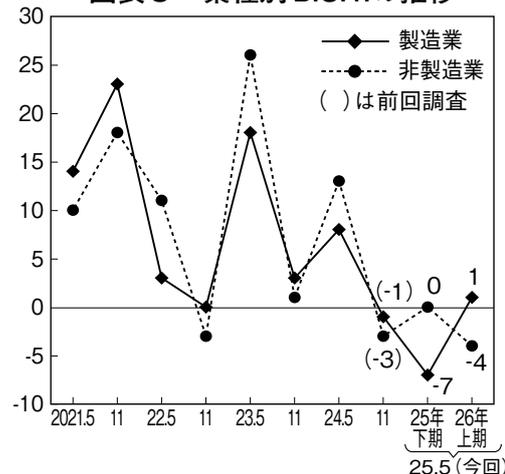
業種を詳細にみると、全18業種のうち、「上昇」が5業種、「横ばい」が3業種、「下降」が10業種となった（7頁付表）。製造業では、「パルプ・紙・紙加工品」（+6→+23）や、「食料品」（△12→+11）で改善を見込む。一方、主力の「輸送用機械器具」（△16→△27）で大幅なマイナスとなったことに加え、「化学・ゴム製品」（±0→△15）、「一般機械器具」（+20→△7）などが悪化に転じた。非製造業では、「建設業」（±0→△9）が悪化に転じるも、「運輸・通信業」（△21→+20）、「小売業」（△6→+10）は持ち直す見込みとなった。

なお、2026年上期は、製造業が+1とわずかながらプラスに転じる一方で、非製造業は△4と再び悪化する見通し。

図表2 業種別・規模別B.S.I. (単位：%)

項目	回答企業数	業界景気							
		2025年7～12月				2026年1～6月			
		上 昇	横 ばい	下 降	B. S. I.	上 昇	横 ばい	下 降	B. S. I.
全企業	278	17	62	21	△4	17	65	18	△1
大企業	29	21	72	7	14	21	58	21	0
中小企業	249	17	61	22	△5	16	66	18	△2
製造業	127	18	57	25	△7	16	69	15	1
大企業	8	25	62	13	12	38	49	13	25
中小企業	119	17	57	26	△9	15	70	15	0
非製造業	151	17	66	17	0	17	62	21	△4
大企業	21	20	75	5	15	15	60	25	△10
中小企業	130	16	65	19	△3	17	63	20	△3

図表3 業種別B.S.I.の推移



注1) 本調査における中小企業とは、資本金3億円以下または従業員300人以下の企業（ただし卸売業では同1億円以下または同100人以下、小売業では同5,000万円以下または同50人以下、サービス業では同5,000万円以下または同100人以下）であり、それ以外を大企業とした。
注2) 「2025年7～12月」は「2025年1～6月」と、「2026年1～6月」は「2025年7～12月」と比較した見通しである。

調査の要領

- 調査目的：この調査は、当研究所が1963年より毎年2回実施しているもので、静岡県内企業経営者の自社の業績見通しをもとに、業界景気を調査することを目的にしている。
- 調査対象：静岡県内に本社をおく主要企業
- 調査方法：各企業に対するアンケート調査
- 調査内容：①2025年上期（1～6月）に比べた2025年下期（7～12月）、および2025年下期に比べた2026年上期の自社の業績見通し
②2025年上期に比べた2025年下期の売上額、経常利益などの項目別見通し
③現在の企業経営上の問題点および今後重視する経営戦略
- 調査時点：2025年5月中旬
- 回答状況：調査対象企業745社のうち、有効回答がよせられた企業は278社で、有効回答率は37.3%である。

(注) B.S.I. (Business Survey Index) とは、企業経営者の見通しを数字であらわしたもので、前期に比べて上昇とみる…x、横ばいとみる…y、下降とみる…z について、 $x+y+z=100$ とした時、 $B.S.I.=2x+y-100=x-z$ と定義。全員が上昇とみればB.S.I.は+100、全員が下降とみるとB.S.I.は△100になる。上昇と判断する人が多ければ多いほど+100に近づき、下降とみる人が多ければ多いほど△100に近づく。上昇と下降が同数（全員が横ばいとみる場合も含む）の場合、B.S.I.は0となる。

項目別見通し

□販売数量の鈍化とコスト高で、製造業・非製造業ともに収益環境が悪化

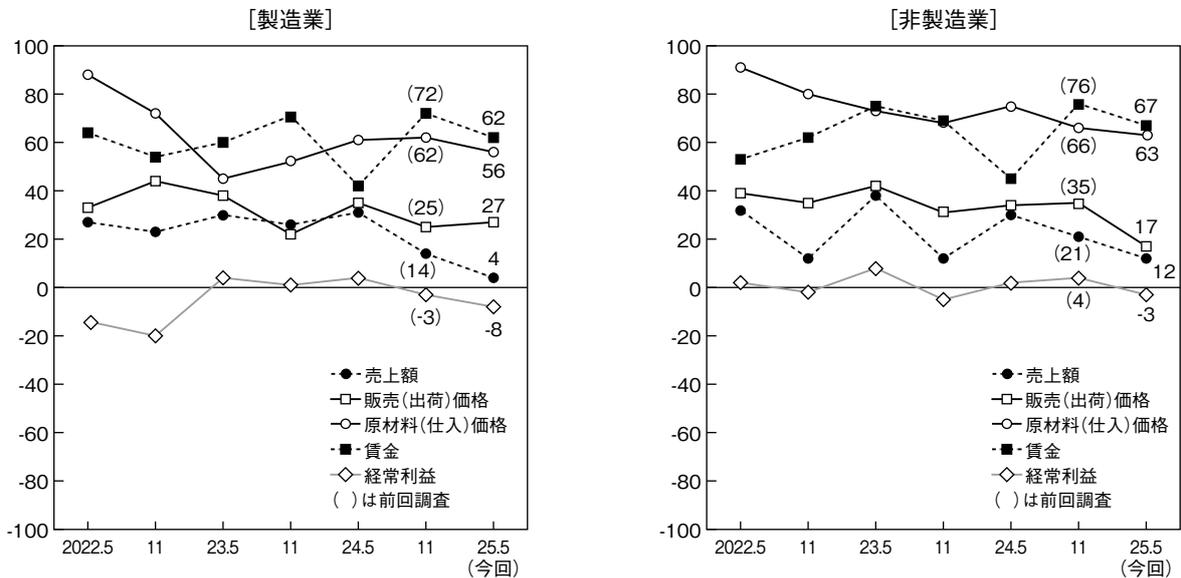
今後の見通しについて項目別に前回調査と比較すると、製造業では、「原材料（仕入）価格」（+62→+56）は上昇基調を維持するとの見方が強い。価格転嫁の進展で「販売（出荷）価格」（+25→+27）は上昇が続くが、先行き不透明感の高まりによる需要の減少で「販売数量」（+2→△11）や「生産量」（+2→△4）が減少し、「売上額」（+14→+4）の伸びは鈍化。一方、「賃金」（+72→+62）の上昇などのコスト高に対する懸念は依然として強く、「経常利益」（△3→△8）はさらに減少すると予想される（図表4、5）。

非製造業では、「販売（出荷）価格」（+35→+17）、「販売数量」（+10→+2）で伸びが鈍るものの、「売上額」（+21→+12）は増勢を維持。ただし、「原材料（仕入）価格」（+66→+63）や「賃金」（+76→+67）の上昇が響き、「経常利益」（+4→△3）は悪化に転じるとみられる。

図表4 2025年7～12月の項目別B.S.I.

[製造業]		B.S.I.	項 目	B.S.I.	[非製造業]	
減少・下降	増加・上昇				減少・下降	増加・上昇
28	32	4	売上額	12	22	34
11	38	27	販売(出荷)価格	17	12	29
34	23	△11	販売数量	2	23	25
30	31	1	受注額	3	22	25
30	26	△4	生産量	△2	17	15
2	58	56	原材料(仕入)価格	63	5	68
14	12	△2	製品(商品)在庫数	△1	12	11
1	63	62	賃金	67	1	68
7	19	12	雇用者数	18	5	23
15	27	12	設備投資	19	11	30
20	17	△3	金融機関借入	0	16	16
35	27	△8	経常利益	△3	25	22

図表5 主要な項目別B.S.I.の推移



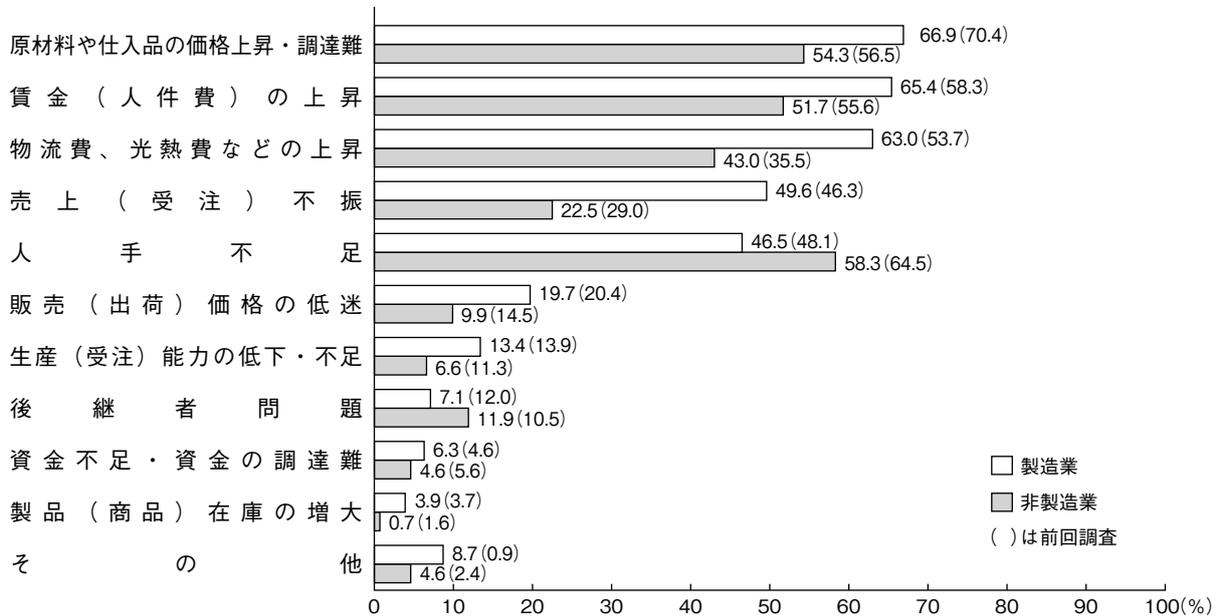
経営上の問題点

□製造業・非製造業ともにコスト増加を問題視、非製造業は人手確保に苦慮

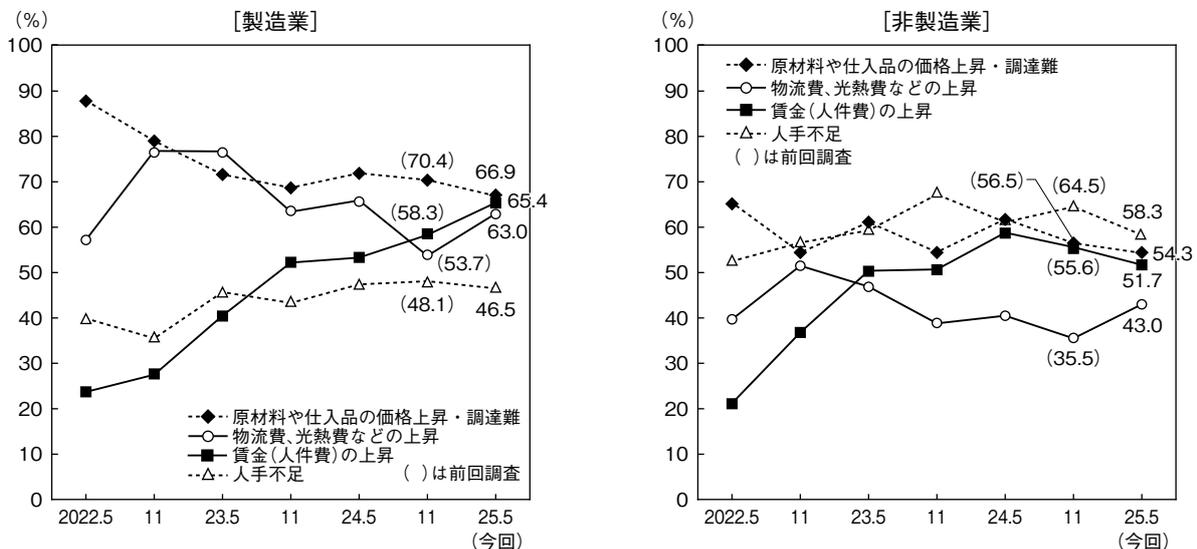
企業経営上の問題点としては、製造業では「原材料や仕入品の価格上昇・調達難」(66.9%)が最も多く、次いで「賃金(人件費)の上昇」(65.4%)となっている(図表6)。前回調査と比べると「後継者問題」は△4.9ポイント、「原材料や仕入品の価格上昇・調達難」は△3.5ポイント減少したものの、「物流費、光熱費などの上昇」が+9.3ポイント、「賃金(人件費)の上昇」が+7.1ポイント上昇しており、コスト負担の増加を問題視していることがみてとれる(図表7)。

非製造業では「人手不足」(58.3%)が最も多く、次いで「原材料や仕入品の価格上昇・調達難」(54.3%)、「賃金(人件費)の上昇」(51.7%)となり、人手不足に加え、製造業と同様にコストの増加を指摘する企業が多かった。

図表6 現在の企業経営上の問題点(複数回答)



図表7 主要な企業経営上の問題点の推移



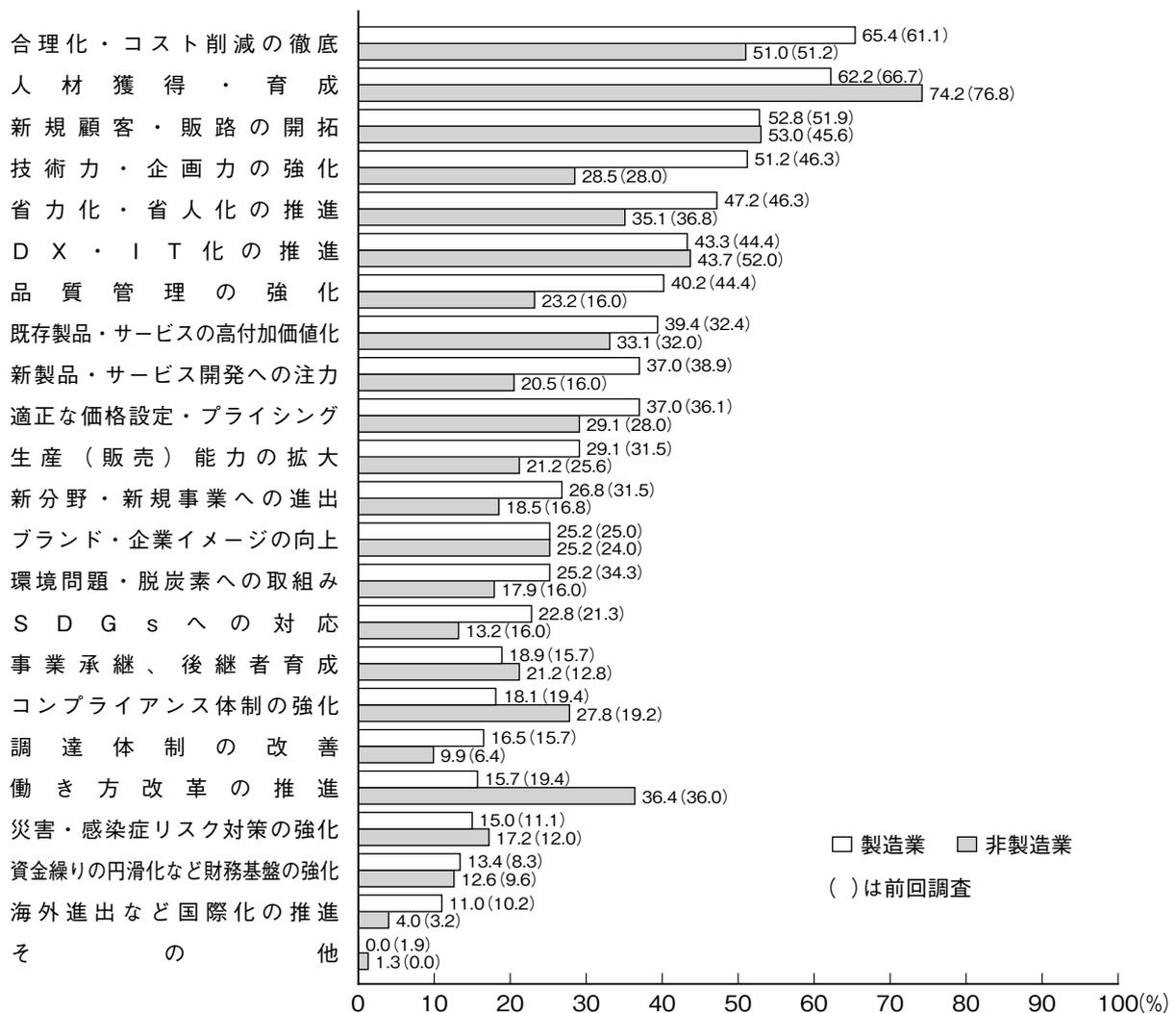
今後重視する経営戦略

□コスト削減を進めながら、新たな販路の開拓に注力

今後重視する経営戦略としては、製造業・非製造業とも「合理化・コスト削減の徹底」、
「人材獲得・育成」、「新規顧客・販路の開拓」が上位に並んだ（図表8）。同時に、「省力化・
省人化の推進」や「D X・I T化の推進」との回答も依然として多く、自動化やデジタル
化を通じた生産性向上やコスト削減を重視する様子が見られる。

とりわけ、製造業では、「既存製品・サービスの高付加価値化」（32.4%→39.4%）が大
幅に増加しているのが目立ち、非製造業では「コンプライアンス体制の強化」（19.2%
→27.8%）、「事業承継、後継者の育成」（12.8%→21.2%）など、組織体制に関する課題を
挙げる経営者が増えている。

図表8 今後重視する経営戦略（複数回答）



以上、静岡県内企業経営者による2025年下期の景気見通しは、2期連続の悪化となった。
依然として原材料や人件費の高止まりが負担となる中、米国の関税政策の転換を背景とし
た外需の不透明感も加わり、特に製造業では売上や受注の減少に対する懸念が高まってい
る。価格転嫁に依存しない経営体質の強化が必要と感じる企業も多く、今後はD Xの推進
や、販路の開拓、既存製品の高付加価値化など多面的な対応が求められる。（駒野 峻大）

付表 2025年7～12月の業界景気、自社の見通し(B.S.I.)

項目(B.S.I.) 区分	(業 前 回 景 気)	(業 今 回 景 気)	売 上 額	価 販 売 額 (出 荷 格)	販 売 数 量	受 注 額	生 産 量	(原 仕 入 材 価 格 料)	在 製 品 庫 (商 品 数)	賃 金	雇 用 者 数	設 備 投 資	借 金 融 機 関 入 関	経 常 利 益
	全産業(278)	△2	△4	8	21	△4	2	△3	60	△2	64	15	15	△1
製造業(127)	△1	△7	4	27	△11	1	△4	56	△2	62	12	12	△3	△8
食料品(18)	△12	11	39	44	27	33	27	67	16	67	0	28	6	11
木材・木製品(7)	△20	△15	0	29	△29	0	△29	57	14	57	29	43	△29	29
パルプ・紙・紙加工品(13)	6	23	38	62	25	16	8	77	△15	85	0	31	25	38
化学・ゴム製品(7)	0	△15	△14	29	△29	△29	△15	86	29	43	0	0	29	△43
窯業・土石製品(4)	16	0	25	50	25	25	25	50	0	25	25	△25	0	25
鉄鋼・非鉄金属(8)	0	0	25	38	25	25	37	50	△13	38	12	25	△50	38
金属製品(11)	0	△9	△18	27	△37	△9	△9	18	△18	45	△9	18	27	△18
一般機械器具(15)	20	△7	△7	6	△20	0	△20	57	△6	47	33	13	△14	△40
電気機械器具(4)	33	△25	0	75	△50	67	25	50	0	100	75	0	△75	0
輸送用機械器具(24)	△16	△27	△21	0	△38	△37	△42	38	△8	67	9	△8	△13	△29
その他の製造業(16)	△7	△20	△6	7	△13	6	7	73	△6	80	7	0	7	△33
非製造業(151)	△3	0	12	17	2	3	△2	63	△1	67	18	19	0	△3
建設業(33)	0	△9	6	4	4	△6	0	67	△4	64	25	0	16	0
卸売業(30)	△5	△11	0	31	△4	△8	0	67	△21	69	28	37	△4	△31
小売業(21)	△6	10	14	20	△24	△11	△23	52	10	81	0	5	△25	15
運輸・通信業(22)	△21	20	25	23	12	20	0	70	7	70	30	50	20	20
サービス業(35)	0	0	20	20	14	23	8	67	16	60	11	3	△10	△3
ガス業(4)	-	△25	△75	△50	△25	△25	△33	0	△25	50	25	75	34	△25
ホテル・旅館業(6)	7	17	67	17	60	25	0	60	0	67	0	33	0	0
規模														
大企業(29)	15	14	21	35	18	25	14	64	4	64	18	33	△4	18
中小企業(249)	△4	△5	7	19	△7	△1	△5	60	△2	64	15	14	△1	△8
地域														
東部(71)	6	△4	13	16	2	5	△3	60	△7	58	0	8	△2	△3
中部(111)	0	5	18	32	7	15	5	60	1	63	15	25	△6	△1
西部(96)	△12	△12	△5	14	△20	△13	△12	59	△2	72	27	11	5	△11

※区分の横の()内の数字は回答数